

流木や河原の石のアート

環境

第1章 十勝の平野や川ができるまで

第2章 先史時代と川

第3章 アイヌ文化と川

第4章 十勝開拓と川

第5章 発展、今、そして未来へ

用語

さくいん



流木から作り出された「アート」。決まったかたちがないものを組みあわせることによって、イメージが広がる。

流木は、川の流れに運ばれていくうちに、おれてけずられていきます。木や枝の自然な形が変形し、力強くなったものからやわらかな感じになったものまで、ふしぎな魅力を持つようになります。

確かに、パッと見ればゴミであり、場合によっては、魚の網を破るなどとても迷惑なものでもあります。まあ、たきぎにはなるけれど...という思いを持つ人が多いと思います。

しかし、ちょっと手に取って、ひっくり返しながら見てみると、意外に美しいものです。何かの形に見えるものもあります。

こうした流木を集めて、思い思いの形を作っていくことは、アート（芸術）でもあるのです。



流木で作られたプランター。道立十勝エコロジーパーク(音更町)。(写真：(財)十勝エコロジーパーク財団)

花のプランターなどにも

「ちょっと芸術は...」という人でも、花が好きな人はいませんか？ もしそうなら、庭や部屋にかざる時、植木鉢やプランターのかわりに流木を使ってみてはどうでしょうか？

花も生き物です。流木ももとは生き物です。しかも、形は変化に富んでいます。

焼き物やプラスチックではなかなか出せない、微妙かつだいたんな「味」があります。きっと、花と合い、好みに合う形があるでしょう。

何より世界に一つしかない、あなただけのプランターができるのです。

河原の石で何が出来る？

河原の石の多くは、もとは山の「体」です。はるか昔に、地球の熱や圧力でつくられた石にはいろいろな種類があります (p28)

さらに、こうした石が川の水に流されていくうちに、けずられ、大小さまざまな形となっています。

流木と同じように「アート」にしたり、かざりに使ってみましょう。

小石を拾い、小さな板とエポキシボンド、それに色つきサインペン（水性顔料のもの）を用意すると、かわいい立体絵画ができます。小石は、ウラが平らなものを選ぶといいようです。



ある野外授業でおこなわれた、石のアートづくり(札内川・帯広市)。